

注目の新設校インタビュー

お話 東京成徳大学深谷中学校(認可手続き中)

東京成徳大学深谷高等学校校長 大谷幸男 先生



編集部 よろしくお願いたします。東京成徳大学深谷高校に来春中学校が併設することになりましたが、中学校開校に踏み切ったきっかけからお願いたします。

大谷 地域のご期待に応えるためです。県北地区には本庄東高校が中高一貫教育を行っていますが、もっと一貫教育校がほしいと考えている方は多いと思っています。本校は1963年にこの地に開校、地域の皆さんとともに歩んできましたが、こうした歴史があるからこそ、一貫教育を希望する声に応えようと決めました。

編集部 県南地区や東京などと比べると、中高一貫教育に対するニーズはあまり高くないのでは、と思っていました。

大谷 確かにさいたま市などと比べるとおっとりした地域ですが、伸び代がある子どもたちはたくさんいます。こうした子どもたちに、さらに伸びる環境を提供したいと思っています。

編集部 地域の皆さんは、どんな点を中高一貫教育に期待しているのでしょうか。

大谷 社会の状況は大きく変化しました。日本企業でも実力ある外国人を雇い、社内公用語も英語にするなど、グローバル化が進んでいます。こうした変化に対応するには、実力と人間性の双方を備えた人材の育成が必要です。公立中学・公立高校でもこうした人材育成に努めているとは思いますが、やはり中高一貫教育に利があると思う方が多いことも事実です。

編集部 中高一貫教育の基本的な学校像をお聞かせください。

大谷 地域の期待は「より安全・安心」「より確かな学力が身につく」「より学園らしい学園生活」で

す。「より安全・安心」は学校である以上、当然のことです。「より確かな学力が身につく」は、自己実現が図れることでしょう。直接には志望大学合格です。だからと言って、勉強勉強で部活動もできない、生徒同士の人間関係も悪い意味のライバル意識だけでギスギスしていたら良くありません。明るく和気あいあいとした学校で進学も部活動もがんばる、最高の思い出と固い絆で結ばれた仲間が得られる場、これが「より学園らしい学園生活」です。

編集部 中高一貫教育で育てたい生徒像はいかがですか。

大谷 高い学力と豊かな人間性を持ち、何事にも前向きな生徒です。「成徳」の校名は「徳を成す」という建学の精神から来ていますが、特に意識しなくても、他人に対し思いやりのある善行が出来、あるいは勉強を初め様々なことに対して前向きな取り組みの出来る人間性のことです。6年間かけてこうした生徒を育てていきます。

編集部 そのために何か特別な取り組みなどは予定しているのでしょうか。

大谷 校長の私自身が全クラスを対象に、週1時間、論語などの中国古典を中心に討論・発表などを含む授業を行ないます。教養としての中国古典、というだけでなく、人としての生き方在り方などを直接指導します。

編集部 授業時間などについてお聞かせください。

大谷 週6日制・50分授業で、火・木は7時間目、月・水・金は6時間目、土曜日は3時間目まで授業を行います。週35時間ですね。英数は毎日、国語は週5回と、主要教科の時間数を多く設定しています。

編集部 授業の進捗はいかがですか。

大谷 主要教科では中3から順次高校内容に入っていきます。高2からは文系、理系に分けて大学進学に備えます。カリキュラムの進行は早いです。授業時間数が多いので、ただ単に毎回の授業が早く進む、ということではありません。むしろ丁寧に授業内容の確実なる定着を十分考慮しながら進んでいきます。

編集部 教科教育の特色はいかがでしょう。

大谷 先ほどのグローバル化への対応という意味でも、実践的な英語力の育成には特に力を入れます。「読む」「書く」「話す」「聞く」のどの能力もしっかり伸ばします。ALTの指導時間をたっぷりとるとともに、国内で原則英語のみ使用のイングリッシュキャンプも行ないます。特に中1・中2では外国人アレルギーをとることに力点を置きます。通常の英語教材だけでなく、英語圏の教材の使用も視野に入れていきます。

編集部 海外研修なども実施するのでしょうか。

大谷 中3では英語の通用する東南アジアを考えています。マレーシアの中学生などは、流暢な英語を話します。本校の生徒たちにもコミュニケーションを図る中で、アジアの同胞の英語力の高さに目を見張るものと思います。また、高校では英語圏へのホームステイも計画しています。

編集部 英語力の目標はありますか。

大谷 中学卒業までに全員最低でも英検準2級はとらせたいですね。もちろん先に進める生徒は2級、準1級、と挑戦してってもらいます。火曜日と木曜日の講習は英検対策に特化しようと思っています。高校段階ではTOEICでハイスコアをめざします。

編集部 理系の教科についてはいかがでしょう。

大谷 数学も英語と同様、毎日授業を組み込んで、力を入れます。また、現在中学用の新校舎を建設中です。そこには中学生専用の理科教室も配置します。観察・実験重視の理科です。今後とも日本は更なる科学技術立国をめざさなければなりません。その先頭に立つ人材を育成するためにも、土台をしっかり作る理科教育を行います。興味を持たせることが大切ですから、大学などの研究機関とも連携して、生徒たちの興味・関心を喚起し、

意欲的に取り組める授業を行います。

編集部 新校舎、というお話ですが、中学生は新しい校舎で勉強するのですか。

大谷 はい。現在中学校棟を新築しています。体育館と音楽室・美術室などは現在の校舎施設を高校と共有しますが、ホームルーム教室と理科室、保健室、カウンセリング室などは中学専用になります。新入生は3年間、新校舎で過ごし、高校に内部進学した段階で現在の校舎に移ります。



東京成徳大学深谷
中学校の新校舎

編集部 高校から入学する生徒と同じクラスになるのですか。

大谷 いいえ。授業進度がまったく違いますので、高3の選択授業を含め、全く一緒にはなりません。

編集部 卒業後の進路の目標はどのようになっていますか。

大谷 本校の指導に従って継続的に学習を進めれば、いわゆるGMARCHレベルの大学は難しくありません。ですから、「最低GMARCH」です。もちろん、伸びる生徒はもっと伸ばしますから、難関国公立大や早慶上理も十分めざすことができます。

編集部 国公立大や早慶上理はかなりハードな勉強が必要だと思いますが。

大谷 確かに易しい道のりではありませんが、逃げてしまっただめです。学習を積み重ねていけば十分可能です。プレッシャーを感じる必要はありません。本校には合格へのノウハウとポイントをわきまえた教員が各教科にたくさんいます。「わかる授業は当たり前、本当に理解し、活用できるようになるまで教え込む指導」で、「願い」が「手が届く目標」に変わっていきます。

編集部 補習や補講はいかがですか。

大谷 長期休暇中は学年ごとに目標を決めて講習を行ないます。補習なども必要に応じて実施しますので、「積み残し」は作りません。予備校などが

あまり多い地域ではありませんから、単元学習のフォローアップだけでなく、進学対策も学校で十分対応していきます。

編集部 今度は生活面についてうかがいます。朝読書などの取り組みはあるのでしょうか。

大谷 はい。学習に向かう気持ちづくりの意味もこめて、毎日朝読書からスタートします。

編集部 昼食は高校生と一緒に食堂でとることになるのでしょうか。

大谷 いいえ。中学生は月曜日から金曜日までは給食を実施します。土曜日は食堂を利用してもかまいません。

編集部 放課後も遅くなると、おなかですくこともあると思いますが、放課後は高校の食堂を活用することができるのでしょうか。

大谷 今のところその予定はありませんが、購買での対応を検討しています。

編集部 部活動は高校生と毎日一緒に活動することになりますか。

大谷 毎日は難しいですね。7時間目までの授業の日もありますから、原則は月・水・金です。ほとんどの部活動は、可能な範囲で一緒にやることになると思います。1期生は人数も高校生に比べると少数ですから、部の種類もある程度限定されるでしょう。一緒に活動する場合も、中学生が先に切り上げる形になると思います。

編集部 中には、部活動に夢中になって、勉強が疎かになる生徒も出てしまうこともあるかもしれません。どのような対応をお考えですか。

大谷 まず、新入生はオリエンテーション合宿で中学生としての勉強のやり方、ノートのとり方、授業の受け方などの習慣づけを指導します。勉強に向かう気持ち作りです。さらに4月中は部活動のある程度制限する予定です。この間に予習・復習のやり方や家庭学習を徹底して習慣づけしていきます。それから部活動、と言う流れですね。

編集部 初心を忘れてしまうこともありますよね。

大谷 そういった生徒も出るかもしれません。「学

習姿勢がだれてしまうこと」は、家庭での生活にも表れますから、保護者との連絡を密にしていきます。ホームルーム担任だけでなく、教科担当との面談も頻繁に実施していくことで、モチベーションを下げないように指導します。この点では、系列の東京成徳大学にこども学部や応用心理学部がありますから、そこでの研究成果をフルに活用して、生徒の健全なメンタリティーの維持に効果的な指導を行ないます。

編集部 登下校はスクールバスですか。

大谷 深谷駅からは中学生専用のバスを運行します。また、美里、江南川本、森林公園、男衾、小川、行田、妻沼の7路線のスクールバスを運行しています。こちらは高校生と一緒にの利用となります。

編集部 今度は入試についてうかがいます。どのような設定になるのでしょうか。

大谷 現在の予定ですが、1月10日午後、1月12日午前・午後、1月26日午前、2月9日午前の5回を予定しています。1月10日はさいたま市と高崎市での入試も考えています。すべて国算の2教科と、国算理社の4教科の選択制です。面接は実施しません。当日中に合格発表の予定です。

編集部 出題の方針をお聞かせください。

大谷 中学受験生としての基礎、基本が身につけているかを重視します。ですから、難問・奇問は出題しません。また、地域的にいわゆる進学塾に通っていない受験生もいますから、小学校の基礎事項を土台とした問題も出題します。

編集部 では最後に、受験生の皆さん、保護者の皆様にメッセージをお願いします。

大谷 本校では、学力だけでなく確かな人間性、社会性をしっかり育てていきます。高みをめざしていきたい、意欲のある生徒の皆さんに、ぜひ志願していただきたいと思います。「伸ばすこと」に全力をあげて取り組み、生徒・保護者の皆さんの信頼に応えていきます。

編集部 ありがとうございました。

東京成徳大学深谷中学校(認可手続き中)

交通案内 JR深谷駅よりスクールバスあり

○説明会 7/17(火)、12/2(日)各10時~本校、10/14(日)・11/11(日)各14時~本校、

9/11(火)10時~クレアこうのす、10/31(水)10時~行田会場、11/26(月)10時~熊谷会場